Amazon EKS アプリケーションの HA と耐障害性のための設計

AWS 規範ガイダンス

AWS 規範ガイダンス: Amazon EKS アプリケーションの HA と耐障害性のための設計

Table of Contents

Amazon EKS アプリケーションの高可用性と耐障害性のための設計

Haofei Feng、Frank Fan、Rus Kalakutskiy、Amazon Web Services (AWS)

2025 年 10 月 (ドキュメント履歴)

アプリケーション設計で高可用性 (HA) と回復性を確保することは、目標復旧時点 (RPO) と目標復旧時間 (RTO) をほぼゼロにするには不可欠です。組織がアプリケーションを Kubernetes 環境に移行してモダナイズするにつれて、堅牢でスケーラブルなソリューションに対する需要は増え続けています。Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) を使用すると、コンテナ化されたアプリケーションを大規模に効率的に管理できます。

このガイドでは、Amazon EKS マイクロサービスアプリケーションを設計および管理するための広く認識されている推奨事項とベストプラクティスのセットについて詳しく説明します。豊富な経験と実際のデプロイに基づいて、これらのインサイトはアーキテクトや開発者にとって貴重なガイダンスを提供します。これらの推奨事項を実装して、Kubernetes ベースのアプリケーションのパフォーマンス、信頼性、スケーラビリティを高め、堅牢なオペレーションを実現します。

高可用性と耐障害性の設計上の考慮事項

責任共有モデルは Kubernetes でより複雑になります。Amazon EKS コントロールプレーンの可用性と耐障害性は、Amazon Web Services () によって管理されますAWS。組織はデータプレーンを管理し、マイクロサービスアプリケーションのパフォーマンスと可用性に大きな影響を与える可能性があります。

Amazon EKS で可用性と回復力の高いアプリケーションを設計する場合は、次のコンポーネントを検討してください。

- マイクロサービスアプリケーション: ポッドとコンテナ
- ワークロードデータプレーン: Ingress Controller、ポッド、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) Container Network Interface (CNI)、サービスメッシュサイドカー、kube-proxy などのシステムコンポーネント
- ワークロード管理レイヤー: コントローラー、アドミッションコントローラー、ネットワークポリシーエンジン、およびこれらのコンポーネントの永続データストレージ
- Kubernetes コントロールプレーン
- インフラストラクチャ: ノード、ネットワーク、ネットワークアプライアンス

Kubernetes クラスター内で実行されるコンポーネントを参照する最初の 3 つの考慮事項については、このガイドで以下のトピックについて説明します。

- ノードとアベイラビリティーゾーンにワークロードを分散する
- PDB による重要なワークロードの保護
- プローブとヘルスチェックの設定
- コンテナライフサイクルフックの設定
- ゾーン中断中のポッドエビクションについて

ノードとアベイラビリティーゾーンにワークロードを分散する

アベイラビリティーゾーンやノードなどの障害ドメイン間でワークロードを分散することで、コンポーネントの可用性が向上し、水平方向にスケーラブルなアプリケーションの障害が発生する可能性が低くなります。以下のセクションでは、ノードとアベイラビリティーゾーンにワークロードを分散する方法について説明します。

ポッドトポロジの分散制約を使用する

Kubernetes ポッドトポロジの分散制約により、Kubernetes スケジューラはStatefulSet、異なる障害ドメイン (アベイラビリティーゾーン、ノード、およびハードウェアのタイプ) によって管理されるポッドReplicaSetを分散するように指示されます。ポッドトポロジの分散制約を使用すると、次のことができます。

- アプリケーションの要件に応じて、さまざまな障害ドメインにポッドを分散または集中させます。たとえば、レジリエンスのためにポッドを配布し、ネットワークパフォーマンスのためにポッドを集中させることができます。
- アベイラビリティーゾーン間での分散やノード間での分散など、さまざまな条件を組み合わせます。
- 条件が満たされない場合は、優先アクションを指定します。
  - maxSkew と の組み合わせwhenUnsatisfiable: DoNotScheduleで を使用してminDomains、スケジューラのハード要件を作成します。
  - whenUnsatisfiable: ScheduleAnyway を使用して を減らしますmaxSkew。

障害ゾーンが使用できなくなった場合、そのゾーンのポッドは異常になります。Kubernetes は、可能であればスプレッド制約に従ってポッドを再スケジュールします。

次のコードは、アベイラビリティーゾーン間またはノード間でポッドトポロジースプレッド制約を使用する例を示しています。

```
...
spec:
  selector:
    matchLabels:
      app: <your-app-label>
    replicas: 3
    template:
      metadata:
        labels: <your-app-label>
      spec:
        serviceAccountName: <ServiceAccountName>
...
        topologySpreadConstraints:
        - labelSelector:
            matchLabels:
              app: <your-app-label>
```

```
          maxSkew: 1
          topologyKey: topology.kubernetes.io/zone # <---spread those pods evenly over
 all availability zones
          whenUnsatisfiable: ScheduleAnyway
        - labelSelector:
            matchLabels:
              app: <your-app-label>
          maxSkew: 1
          topologyKey: kubernetes.io/hostname # <---spread those pods evenly over all
 nodes
          whenUnsatisfiable: ScheduleAnyway
```

クラスター全体のトポロジのデフォルトの分散制約

デフォルトでは、Kubernetes はノードとアベイラビリティーゾーン間でポッドを分散するための[トポロジースプレッド制約のセット]を提供します。

```
defaultConstraints:
  - maxSkew: 3
    topologyKey: "kubernetes.io/hostname"
    whenUnsatisfiable: ScheduleAnyway
  - maxSkew: 5
    topologyKey: "topology.kubernetes.io/zone"
    whenUnsatisfiable: ScheduleAnyway
```

> **Note**
>
> さまざまなタイプのトポロジ制約を必要とするアプリケーションは、クラスターレベルのポリシーを上書きできます。

デフォルトの制約は高い を設定します。これはmaxSkew、少数のポッドを持つデプロイには役に立ちません。現時点では、Amazon EKS KubeSchedulerConfiguration では [を変更できません]。他のトポロジスプレッド制約のセットを適用する必要がある場合は、以下のセクションのように変更アドミッションコントローラーを使用することを検討してください。代替スケジューラを実行する場合は、デフォルトのトポロジスプレッド制約を制御することもできます。ただし、カスタムスケジューラを管理すると複雑さが増し、クラスターの耐障害性と HA に影響する可能性があります。このような理由から、トポロジの分散制約にのみ代替スケジューラを使用することはお勧めしません。

トポロジの分散制約のゲートキーパーポリシー

トポロジの分散制約を適用するもう 1 つのオプションは、Gatekeeper プロジェクトのポリシーを使用することです。ゲートキーパーポリシーはアプリケーションレベルで定義されます。

次のコード例は、デプロイ用のGatekeeper OPAポリシーの使用を示しています。必要に応じてポリシーを変更できます。たとえば、 というラベルを持つデプロイにのみポリシーを適用するかHA=true、別のポリシーコントローラーを使用して同様のポリシーを記述します。

この最初の例は、 でConstraintTemplate使用されている を示していますk8stopologyspreadrequired_template.yml。

```
apiVersion: templates.gatekeeper.sh/v1
kind: ConstraintTemplate
metadata:
  name: k8stopologyspreadrequired
spec:
  crd:
    spec:
      names:
        kind: K8sTopologySpreadRequired
      validation:
        openAPIV3Schema:
          type: object
          properties:
            message:
              type: string
  targets:
    - target: admission.k8s.gatekeeper.sh
      rego: |
        package k8stopologyspreadrequired

        get_message(parameters, _default) =3D msg {
          not parameters.message
          msg :=_default
        }


        get_message(parameters, _default) =3D msg {
          msg := parameters.message
        }

        violation[{"msg": msg}] {
```

```
          input.review.kind.kind ="Deployment"
          not input.review.object.spec.template.spec.topologySpreadConstraint
          def_msg :"Pod Topology Spread Constraints are required for Deployments"
          msg :get_message(input.parameters, def_msg)

        }
```

次のコードは、YAML constraints マニフェスト を示していますk8stopologyspreadrequired_constraint.yml。

```
apiVersion: constraints.gatekeeper.sh/v1beta1
kind: K8sTopologySpreadRequired
metadata:
  name: require-topologyspread-for-deployments
spec:
  match:
    kinds:
      - apiGroups: ["apps"]
        kinds: ["Deployment"]
    namespaces:  ## Without theses two lines will apply to the whole cluster
      - "example"
```

トポロジスプレッド制約を使用するタイミング

以下のシナリオでは、トポロジースプレッド制約の使用を検討してください。

- 水平方向にスケーラブルなアプリケーション (ステートレスウェブサービスなど)
- アクティブ/アクティブまたはアクティブ/パッシブレプリカを持つアプリケーション (NoSQL データベースやキャッシュなど)
- スタンバイレプリカを持つアプリケーション (コントローラーなど)

水平方向にスケーラブルなシナリオに使用できるシステムコンポーネントには、次のようなものがあります。

- Cluster Autoscaler と Karpenter (replicaCount > 1と を使用leader-elect = true)
- AWS Load Balancerコントローラー
- CoreDNS

ポッドアフィニティとアンチアフィニティ

場合によっては、特定のタイプのポッドがノードで実行されないようにすることが有益です。たとえば、同じノードで複数のネットワーク負荷の高いポッドをスケジュールしないようにするには、ラベル `Ingress`または でアンチアフィニティルールを使用できます`Network-heavy`。を使用する場合は`anti-affinity`、次の組み合わせを使用することもできます。

- ネットワーク最適化ノードのテイント
- ネットワーク負荷の高いポッドでの対応する許容範囲
- ネットワーク負荷の高いポッドがネットワーク最適化インスタンスを使用するようにするためのノードアフィニティまたはノードセレクタ

ネットワーク負荷の高いポッドが例として使用されます。GPU、メモリ、ローカルストレージなど、要件が異なる場合があります。その他の使用例と設定オプションについては、Kubernetes ドキュメントを参照してください。

ポッドの再調整

このセクションでは、Kubernetes クラスター内のポッドを再調整するための 2 つのアプローチについて説明します。1 つ目は Descheduler for Kubernetes を使用します。Descheduler は、トポロジの分散制約やアンチアフィニティルールに違反するポッドを削除する戦略を強制することで、ポッドの分散を維持するのに役立ちます。2 番目のアプローチでは、Karpenter 統合とビンパッキング機能を使用します。統合は、ワークロードをより少ない、より効率的にパックされたノードに統合することで、リソースの使用状況を継続的に評価および最適化します。

Karpenter を使用していない場合は、Descheduler を使用することをお勧めします。Karpenter と Cluster Autoscaler を一緒に使用している場合は、ノードグループに Descheduler と Cluster Autoscaler を使用できます。

グループレスノードのデスケジューラ

ポッドが削除されてもトポロジの制約が満たされ続ける保証はありません。たとえば、デプロイをスケールダウンすると、ポッド分散が不均衡になる可能性があります。ただし、Kubernetes はスケジューリング段階でのみポッドトポロジの分散制約を使用するため、ポッドは障害ドメイン間で不均衡なままになります。

このようなシナリオでバランスの取れたポッドディストリビューションを維持するには、Descheduler for Kubernetes を使用できます。デスケジューラは、ポッドの最大有効期間や有効

期限 (TTL) の適用、インフラストラクチャの使用の改善など、複数の目的に便利なツールです。レジリエンスと高可用性 (HA) の観点から、次のデスケジューラ戦略を検討してください。

- RemovePodsViolatingTopologySpreadConstraint
- RemovePodsViolatingInterPodAntiAffinity
- RemoveDuplicates

Karpenter 統合とビンパッキング機能

Karpenter を使用するワークロードでは、統合機能とビンパッキング機能を使用してリソース使用率を最適化し、Kubernetes クラスターのコストを削減できます。Karpenter はポッドの配置とノード使用率を継続的に評価し、可能な場合はワークロードをより少ない、より効率的にパックされたノードに統合しようとします。このプロセスでは、リソース要件を分析し、ポッドアフィニティルールなどの制約を考慮し、ノード間でポッドを移動して全体的なクラスター効率を向上させる可能性があります。次のコードは例を示しています。

```
apiVersion: karpenter.sh/v1beta1
kind: NodePool
metadata:
  name: default
spec:
  disruption:
    consolidationPolicy: WhenUnderutilized
    expireAfter: 720h
```

では`consolidationPolicy`、 `WhenUnderutilized`または を使用できます`WhenEmpty`。

- `consolidationPolicy` が に設定されている場合`WhenUnderutilized`、Karpenter はすべてのノードを統合と見なします。Karpenter が空または十分に使用されていないノードを検出すると、Karpenter はコストを削減するためにノードの削除または交換を試みます。
- `consolidationPolicy` が に設定されている場合`WhenEmpty`、Karpenter はワークロードポッドを含まないノードのみを統合対象と見なします。

Karpenter の統合の決定は、モニタリングツールに表示される CPU またはメモリ使用率のみに基づくものではありません。代わりに、Karpenter はポッドリソースリクエストと潜在的なコスト最適化に基づいて、より複雑なアルゴリズムを使用します。詳細については、Karpenter のドキュメントを参照してください。

PDB を使用して重要なワークロードを保護する

ポッド中断予算 (PDB) は、クラスター内のアプリケーションの高可用性を維持するために不可欠な機能です。PDB は、特定のタイプのポッドの最小可用性であるターゲットサイズを指定します。つまり、特定のポッドタイプのレプリカの最小数が常に実行されている必要があります。実行中のレプリカの数がターゲットサイズを下回ると、Kubernetes はターゲットサイズに達するまで残りのレプリカのさらなる中断を防ぎます。PDBsは、ワークロードがこれらのイベントの影響を受けないようにし、中断なく実行し続けるのに役立ちます。中断が発生すると、Kubernetes は PDB で指定されたレプリカの数を維持しながら、影響を受けるノードからポッドを適切に削除しようとします。

PDB を使用して、 `minAvailable`とレプリカ`maxUnavailable`の数を宣言できます。たとえば、アプリのコピーを 3 つ以上使用できるようにする場合は、次の例のような PDB を作成します。

```
apiVersion: policy/v1beta1
kind: PodDisruptionBudget
metadata:
  name: my-svc-pdb
spec:
  minAvailable: 3
  selector:
    matchLabels:
      app: my-svc
```

アプリケーションに PDBs を正しく設定することで、計画的または計画外のイベント中の中断を最小限に抑えることができます。アンチアフィニティルールを使用して、異なるノードでデプロイのポッドをスケジュールし、ノードのアップグレード中の PDB 遅延を回避できます。

プローブとロードバランサーのヘルスチェックを設定する

Kubernetes には、ロードバランサーのヘルスチェックに加えて、アプリケーションのヘルスチェックを実行する方法がいくつか用意されています。次の Kubernetes 組み込みプローブをロードバランサーのヘルスチェックとともに、ポッドのコンテキストのコマンドとして、または kubelet またはホスト IP アドレスへの HTTP/TCP プローブとして実行できます。

ライブネスプローブと準備状況プローブは、異なる独立した (または少なくとも異なるタイムアウト値を持つ) 必要があります。アプリケーションに一時的な問題がある場合、準備状況プローブは問題が解決されるまでポッドを準備中としてマークします。livenss プローブの設定が正しくない場合、liveness プローブはポッドを終了する可能性があります。

起動プローブ

スタートアッププローブを使用して、初期化サイクルが長いアプリケーションを保護します。起動プローブが成功するまで、他のプローブは無効になります。

Kubernetes がアプリケーションの起動を待機する最大時間を定義できます。最大設定時間が経過してもポッドが起動プローブに失敗した場合、アプリケーションは終了し、新しいポッドが作成されます。

アプリケーションの起動時間が予測不可能な場合は、起動プローブを使用します。アプリケーションの起動に 10 秒かかることがわかっている場合は、`initialDelaySeconds`代わりに でライブネスプローブまたは準備状況プローブを使用します。

ライブネスプローブ

ライブネスプローブを使用して、アプリケーションの問題や、プロセスが問題なく実行されているかどうかを検出します。ライブネスプローブは、プロセスが実行され続けるがアプリケーションが応答しなくなるデッドロック状態を検出できます。ライブネスプローブを使用する場合は、次の操作を行います。

- を使用して`initialDelaySeconds`最初のプローブを遅延させます。
- ライブネスプローブと準備状況プローブに同じ仕様を設定しないでください。
- ポッドの外部にある要素 (データベースなど) に依存するようにライブネスプローブを設定しないでください。
- 特定の のライブネスプローブを設定します`terminationGracePeriodSeconds`。詳細についてはKubernetes ドキュメントを参照してください。

準備状況プローブ

準備状況プローブを使用して以下を検出します。

- アプリケーションがトラフィックを受け入れる準備ができているかどうか
- 部分的な可用性。アプリケーションが一時的に使用できない場合がありますが、特定のオペレーションの完了後に再び正常になると予想されます。

準備状況プローブは、アプリケーションがトラフィックを処理できるように、アプリケーション設定と依存関係が問題やエラーなしで実行されていることを確認するのに役立ちます。ただし、準備

状況プローブの設定が不十分な場合、それを防ぐのではなく停止が発生する可能性があります。データベースへの接続などの外部要因に依存する準備プローブは、すべてのポッドがプローブに失敗する可能性があります。このような障害が発生すると停止し、バックエンドサービスから障害が発生したポッドを使用した他のサービスへのカスケード障害が発生する可能性があります。

Ingress リソースとロードバランサーのヘルスチェック

Application Load Balancer と Kubernetes `ingress`にはヘルスチェック機能があります。Application Load Balancer のヘルスチェックでは、ターゲットポートとパスを指定します。

> **Note**
>
> Kubernetes の場合`ingress`、登録解除のレイテンシーが発生します。Application Load Balancer のデフォルトは 300 秒です。準備状況プローブに使用したのと同じ値を使用して、イングレスリソースまたはロードバランサーのヘルスチェックを設定することを検討してください。

NGINX はヘルスチェックも提供します。詳細については、NGINX ドキュメントを参照してください。

Istio イングレスゲートウェイとエグレスゲートウェイには、NGINX からの HTTP ヘルスチェックと同等のヘルスチェックメカニズムはありません。ただし、Istio サーキットブレーカーまたは`DestinationRule`外れ値検出を使用して、同様の機能を実現できます。

詳細については、「Amazon EKS ベストプラクティスガイド」の「可用性とポッドのライフサイクル」を参照してください。

コンテナライフサイクルフックを設定する

正常なコンテナのシャットダウン中、クライアントがダウンタイムを経験しないように、アプリケーションはシャットダウンを開始して`SIGTERM`シグナルに応答する必要があります。アプリケーションは、次のようなクリーンアップ手順を実行する必要があります。

- データの保存
- ファイル記述子を閉じる
- データベース接続を閉じる
- 処理中のリクエストを適切に完了する

- ポッド終了リクエストを満たすためにタイムリーに終了する

クリーンアップが終了するのに十分な猶予期間を設定します。SIGTERM シグナルに応答する方法については、アプリケーションで使用するプログラミング言語のドキュメントを参照してください。

コンテナライフサイクルフックを使用すると、コンテナは管理ライフサイクルのイベントを認識できます。コンテナは、対応するライフサイクルフックが実行されたときにハンドラーに実装されたコードを実行できます。コンテナライフサイクルフックは、Kubernetes とクラウドの非同期的な性質の回避策を提供します。このアプローチにより、イングレスリソースの前に終了するポッドに転送され、ポッドに新しいトラフィックを送信しないように更新iptablesされる接続が失われるのを防ぐことができます。

コンテナライフサイクル、Endpoint、 EndpointSliceは、さまざまな APIs。これらの APIs をオーケストレーションすることが重要です。ただし、ポッドが終了すると、Kubernetes API は kubelet (コンテナライフサイクル用) とEndpointSliceコントローラーの両方に同時に通知します。図を含む詳細については、「Amazon EKS ベストプラクティスガイド」の「クライアントリクエストを適切に処理する」を参照してください。

kubelet がポッドSIGTERMに送信すると、EndpointSliceコントローラーはEndpointSliceオブジェクトを終了しています。この終了は、Kubernetes API サーバーに通知して、 を更新する各ノードkube-proxyの に通知しますiptables。これらのアクションは同時に行われますが、それらのアクション間に依存関係やシーケンスはありません。kube-proxy 各ノードの がローカルiptablesルールを更新するよりも、コンテナがSIGKILLシグナルを受信する可能性が高くなります。その場合は、次のようなシナリオが考えられます。

- アプリケーションが の受信時に処理中のリクエストと接続をすぐに急に切断するとSIGTERM、クライアントに500エラーが表示されます。
- アプリケーションが の受信時にすべての処理中のリクエストと接続が完全に処理されるようにした場合SIGTERM、猶予期間中、iptablesルールがまだ更新されていない可能性があるため、新しいクライアントリクエストは引き続きアプリケーションコンテナに送信されます。クリーンアップ手順がコンテナのサーバーソケットを閉じるまで、これらの新しいリクエストは新しい接続になります。猶予期間が終了すると、 の送信後に確立された新しい接続SIGTERMは無条件に削除されます。

前述のシナリオに対処するには、アプリ内統合または PreStop ライフサイクルフックを実装できます。図を含む詳細については、「Amazon EKS ベストプラクティスガイド」の「アプリケーションを適切にシャットダウンする」を参照してください。

> **Note**
>
> アプリケーションが正常にシャットダウンされるかどうか、またはpreStopフックの結果にかかわらず、アプリケーションコンテナは最終的に を通じて猶予期間の終了時に終了しますSIGKILL。

コマンドで preStopフックsleepを使用して、 の送信を遅延させますSIGTERM。これにより、イングレスオブジェクトがポッドにルーティングしている間、新しい接続を引き続き受け入れることができます。次の例に示すように、 sleep コマンドの時間値をテストして、Kubernetes やその他のアプリケーションの依存関係のレイテンシーが考慮されていることを確認します。

```
apiVersion: apps/v1
kind: Deployment
metadata:
  name: nginx
spec:
  containers:
    - name: nginx
      lifecycle:
        # This "sleep" preStop hook delays the Pod shutdown until
        # after the Ingress Controller removes the matching Endpoint or EndpointSlice
        preStop:
          exec:
            command:
              - /bin/sleep
              - "20"
              # This period should be turned to Ingress/Service Mesh update latency
```

詳細については、Kubernetes ドキュメントの「コンテナフック」および「Amazon EKS ベストプラクティスガイド」の「アプリケーションを適切にシャットダウンする」を参照してください。

ゾーン中断中のポッドエビクションを理解する

完全なアベイラビリティーゾーンの中断が発生した場合、つまり、そのアベイラビリティーゾーン内のすべてのノードが Kubernetes コントロールプレーンへの接続を失った場合、Kubernetes のノードライフサイクルコントローラーは状況を検出し、影響を受けるゾーンからポッドを削除します。到達できないノードのポッドは とマークTerminatingされ、新しいポッドは利用可能なアベイラビリティーゾーンの正常なノードでスケジュールされます。この期間中、影響を受けるノード

はNotReadyステータスを表示し、スケジューラは新しいポッドがそれらのノードに配置されないようにし、EndpointSlice コントローラーは接続が復元されるまで、障害のあるアベイラビリティーゾーンに関連付けられたエンドポイントをサービスルーティングから削除します。

ゾーン内で部分的なノード障害が発生し、ノードのサブセットのみが到達不能になるシナリオの場合、ノードライフサイクルコントローラーは異なるエビクション動作を適用します。中断が設定された許容期間 (デフォルトでは 5 分) を超えて持続する場合、切断されたノードのポッドは としてマークTerminatingされ、使用可能なアベイラビリティーゾーンの正常なノードで新しいポッドがスケジュールされます。

Amazon EKS ゾーンシフトを実装して耐障害性を向上させる

Amazon Application Recovery Controller (ARC) と統合される Amazon EKS ゾーンシフトは、アベイラビリティーゾーンの障害発生時にトラフィックをプロアクティブに管理するメカニズムを提供します。この機能を使用すると、異常なアベイラビリティーゾーンから同じゾーン内の正常なゾーンにネットワークトラフィックを一時的にリダイレクト AWS リージョン して、サービスの中断を最小限に抑えることができます。

ゾーンシフトメカニズムについて

Amazon EKS ゾーンシフトは、東西トラフィック (クラスター内のポッド間通信) に対処します。ゾーンシフトが Application Load Balancer または Network Load Balancer で設定されている場合、イングレストラフィックルーティングもサポートされます。このメカニズムは、複数の Kubernetes コンポーネントと AWS コントロールプレーンコンポーネントを調整して、実行中のワークロードを中断することなくトラフィックを安全にリダイレクトすることで動作します。アクティブなゾーンシフト中、Amazon EKS は次の調整されたアクションを自動的に実行します。

- ノードのグルーニング: 障害が発生したアベイラビリティーゾーン内のすべてのノードがグルーニングされます。これにより、Kubernetes スケジューラは既存のワークロードを維持しながらノードに新しいポッドを配置できなくなります。
- アベイラビリティーゾーンの再調整の停止: マネージド型ノードグループの場合、アベイラビリティーゾーンの再調整オペレーションは中断され、Auto Scaling グループは正常なアベイラビリティーゾーンでのみ新しいデータプレーンノードを起動するように更新されます。これにより、新しい容量が障害ゾーンにプロビジョニングされなくなります。
- エンドポイントの削除: EndpointSlice コントローラーは、障害が発生したアベイラビリティーゾーンのポッドエンドポイントを関連するすべての EndpointSlices から削除します。これにより、サービス検出とロードバランシングのメカニズムは、正常なアベイラビリティーゾーンで実行されているポッドにのみトラフィックをルーティングします。

- ワークロードの保存: Amazon EKS は、影響を受けるアベイラビリティーゾーンでのノードの終了やポッドの削除を控えます。ゾーンシフトの有効期限が切れたりキャンセルされたりすると、追加のスケーリング操作を必要とせずにトラフィックを安全に戻ることができるように、障害ゾーンでフルキャパシティを維持します。

ゾーンシフトのアクティベーション方法

運用モデルに応じて、2 つのアプローチから選択してゾーンシフトを開始できます。

- 手動ゾーンシフトは、モニタリング、アラート、または顧客レポートによって特定のアベイラビリティーゾーンの問題が検出された場合に、オペレーター主導の制御を提供します。このメソッドには、ARC コンソール、 AWS Command Line Interface (AWS CLI)、またはゾーンシフト APIs を介した明示的なアクションが必要です。ここで、演算子は障害のあるアベイラビリティーゾーンを指定し、シフトの有効期限を定義します。手動シフトは、チームが専用のモニタリング機能とオンコール機能を持ち、トラフィック管理の決定を直接制御したい場合に適しています。
- ゾーンオートシフトは、ARC が、ネットワークメトリクス、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) AWS のサービス、Elastic Load Balancing など、複数の にわたる内部テレメトリとヘルスシグナルに基づいて潜在的なアベイラビリティーゾーンの障害を検出したときに、シフトを自動的に開始 AWS することを に許可します。 は、インジケータが問題を解決したことを示すと、オートシフト AWS を自動的に終了します。手動による介入を最小限に抑えて可用性を最大限に高めたい場合は、検出されたアベイラビリティーゾーンの障害に数分で対応できるため、このアプローチをお勧めします。

効果的なゾーンシフトの前提条件

アベイラビリティーゾーンの障害発生時にゾーンシフトがアプリケーションを適切に保護するには、ゾーンシフト機能を有効にする前に、マルチ AZ レジリエンスのためにクラスターを設計する必要があります。

- マルチ AZ ノード分散: 少なくとも 3 つのアベイラビリティーゾーンにワーカーノードをプロビジョニングして、1 つのゾーンが使用できなくなったときに十分な冗長性を確保します。
- キャパシティプランニング: 1 つのアベイラビリティーゾーンがサービスから削除されたときにワークロード全体に対応するために、正常なアベイラビリティーゾーン間で十分なコンピューティングキャパシティを事前プロビジョニングします。これは、アクティブな中断中のスケーリングオペレーションで容量不足が発生する可能性があるためです。

- ポッドの分散と事前スケーリング: すべてのアベイラビリティーゾーンに各アプリケーションの複数のレプリカをデプロイし、すべてのゾーンで CoreDNS などの重要なシステムコンポーネントを事前スケーリングします。これにより、ゾーンを遠ざけた後も十分な容量が維持されます。

ゾーン中断の回復力に関する推奨事項

- クラスターの作成時にゾーンシフトを有効にする: 新しい EKS クラスターの場合、Amazon EKS コンソール、または などのInfrastructure as Code (IaC) ツールによる初期プロビジョニング中に AWS CLI、ARC とのゾーンシフト統合を有効にします AWS CloudFormation。クイック設定で作成された EKS Auto Mode クラスターでは、デフォルトでゾーンシフトが有効になっています。
- 適切なアクティベーション方法を選択する: 自動応答で最大限の可用性を必要とする本番環境、特にアベイラビリティーゾーンの障害中に数分のダウンタイムがビジネスに大きな影響を与える可能性がある顧客向けアプリケーションには、ゾーンオートシフトを選択します。運用チームがトラフィックの移行前に明示的な承認を行うことを希望する環境や、アプリケーションのテストと検証がまだ進行中の環境では、手動ゾーンシフトを使用します。
- 本番デプロイ前のテストレジリエンス: テストゾーンシフトを手動で開始するか、ゾーンオートシフトの練習実行を有効にして、シングル AZ 損失下でクラスターの動作を検証し、アベイラビリティーゾーン数を減らして運用する場合にアプリケーションが可用性を維持し、パフォーマンスが許容範囲内であり、容量が十分であることを確認します。実際のアベイラビリティーゾーンの障害が発生する前に設定ギャップを特定できるように、このテストを強くお勧めします。
- ロードバランサーの設定と調整する: 外部トラフィックを受信するアプリケーションの場合、関連する Application Load Balancer と Network Load Balancer で ARC ゾーンシフトを有効にして、アベイラビリティーゾーンの障害中に進入トラフィックとクラスター内の東西トラフィックの両方が一緒にシフトするようにします。この調整により、外部リクエストが正常なポッドに到達しても、それらのポッドがシフトアウェイゾーンの依存関係と通信できないシナリオを防ぐことができます。
- シフトオペレーションのモニタリング: ゾーンシフトを有効にしたら、オートシフトのアクティベーション、手動シフトの開始、シフトの有効期限などのシフトイベントのモニタリングとアラートを設定して、トラフィック管理アクションとそのアプリケーション動作への影響に関する運用上の可視性を維持します。

シフトの完了と復旧

ゾーンシフトが設定された期間に基づいて期限切れになるか、アベイラビリティーゾーンの障害が解決した後に手動でキャンセルされると、EndpointSlice コントローラーはすべての EndpointSlices を

自動的に更新して、復元されたアベイラビリティーゾーンにエンドポイントを再統合します。トラフィックは、クライアントがエンドポイント情報を更新して新しい接続を確立すると、以前に影響を受けたゾーンに徐々に戻ります。これにより、手動による介入やポッドの再スケジュールを必要とせずに、クラスターの容量を最大限に活用できます。

結論

アプリケーションの可用性と回復性を高めるためにアーキテクチャを設計する場合は、次のコンポーネントを検討してください。

- マイクロサービスアプリケーション (ポッドとコンテナ)
- ワークロードデータプレーン (Ingress Controller、ポッド、Amazon VPC CNI などのシステムコンポーネント、サービスメッシュサイドカー、kube-proxy)
- ワークロード管理レイヤー (コントローラー、アドミッションコントローラー、ネットワークポリシーエンジン、およびこれらのコンポーネントの永続データストレージ)
- Kubernetes コントロールプレーン
- インフラストラクチャ (ノード、ネットワーク、ネットワークアプライアンス)

これらのコンポーネントに関する考慮事項に対処するには、次の主要な戦略を使用します。

- 高可用性と耐障害性を確保するには、ノードとアベイラビリティーゾーンにワークロードを分散します。
- 重要なワークロードを保護するには、ポッド中断予算 (PDBs) を使用して、中断中のアプリケーションの安定性を維持します。
- ポッドが正常に実行され、トラフィックが正しく処理されるようにするには、スタートアッププローブ、ライブネスプローブ、準備状況プローブ、ロードバランサーのヘルスチェックを設定します。
- コンテナの状態遷移を効率的に管理するには、コンテナライフサイクルフックを設定します。
- ノードの障害またはメンテナンス中のエビクションプロセスを制御するには、ポッドのエビクション時間を設定します。

これらのプラクティスを実装することで、Amazon EKS で実行されているアプリケーションの信頼性と耐障害性を大幅に強化し、堅牢なパフォーマンスと高可用性を確保できます。

リソース

- Kubernetes Pod トポロジのスプレッド制約 (Kubernetes ドキュメント)
- Karpenter FAQs (Karpenter ドキュメント)
- Descheduler for Kubernetes (GitHub リポジトリ)
- 可用性とポッドライフサイクルの Amazon EKS ベストプラクティスガイド
- アプリケーションを適切にシャットダウンする Amazon EKS ベストプラクティスガイド
- [EKS] [request]: pod-eviction-timeoutと回避策を設定する機能 (コンテナロードマップリポジトリ)

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、RSS フィード をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
更新	ゾーン中断中のポッドエビクションに関するセクションを改訂しました。	2025 年 10 月 29 日
更新	ポッドトポロジースプレッド制約の使用セクションを改訂しました。	2025 年 1 月 27 日
初版発行	—	2024 年 10 月 23 日

AWS 規範ガイダンスの用語集

以下は、 AWS 規範ガイダンスによって提供される戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行します。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: オンプレミスの Oracle データベースを の Oracle 用 Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行します AWS クラウド。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: カスタマーリレーションシップ管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行します。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: オンプレミスの Oracle データベースを の EC2 インスタンス上の Oracle に移行します AWS クラウド。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) – 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションを に移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを移行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。

- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

属性ベースのアクセスコントロールを参照してください。

抽象化されたサービス

「マネージドサービス」を参照してください。

ACID

「アトミック性」、「整合性」、「分離」、「耐久性」を参照してください

アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。より柔軟ですが、アクティブ/パッシブ移行よりも多くの作業が必要です。

アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースが同期されるデータベース移行方法。ただし、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間は、ソースデータベースのみが接続アプリケーションからのトランザクションを処理します。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

行のグループで動作し、グループの単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、 `SUM`や などがありま`MAX`す。

AI

「人工知能」を参照してください。

AIOps

「人工知能オペレーション」を参照してください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、ポートフォリオの検出と分析プロセス の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「人工知能 (AI) とは何ですか?」を参照してください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。 AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、オペレーション統合ガイド を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、 AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「 の ABAC AWS」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティーゾーン

他のアベイラビリティーゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティーゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立て AWS るための、 のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。 AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスをまとめています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、 AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、AWS CAF ウェブサイト と AWS CAF のホワイトペーパー を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したボット。

BCP

「事業継続計画」を参照してください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントのData in a behavior graphを参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。エンディアン性も参照してください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの 1 つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

2 つの異なる同一の環境を作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (青) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (緑) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

マルウェアに感染し、ボットハーダーまたはボットオペレーターとして知られる単一の当事者によって制御されているボットのネットワーク。ボットは、ボットとその影響をスケールするための最もよく知られているメカニズムです。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといいます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「ブランチの概要」(GitHub ドキュメント) を参照してください。

ブレークグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たない にすばやくアクセスできるようにします。詳細については、 Well-Architected ガイダンスの「ブレークグラス手順の実装」インジケータ AWS を参照してください。

ブラウンフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウンフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行 の ビジネス機能を中心に組織化 セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

AWS 「クラウド導入フレームワーク」を参照してください。

Canary デプロイ

エンドユーザーへのバージョンのスローリリースと増分リリース。確信できたら、新しいバージョンをデプロイし、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「Cloud Center of Excellence」を参照してください。

CDC

「データキャプチャの変更」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストします。AWS Fault Injection Service (AWS FIS) を使用して、 AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「継続的インテグレーションと継続的デリバリー」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービス を受信する前のローカルでのデータの暗号化。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、 AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの CCoE 投稿を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的にエッジコンピューティングテクノロジーに接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「クラウド運用モデルの構築」 を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が に移行するときに通常実行する 4 つのフェーズ AWS クラウド:

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、 AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「クラウドファーストへのジャーニー」と「導入のステージ」で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略との関連性については、 AWS「移行準備ガイド」を参照してください。

CMDB

「設定管理データベース」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、 GitHubまたは が含まれますBitbucket Cloud。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオなどのビジュアル形式から情報を分析および抽出する AI の分野。例えば、Amazon SageMaker AI は CV 用の画像処理アルゴリズムを提供します。

設定ドリフト

ワークロードの場合、設定は想定状態から変化します。これにより、ワークロードが非準拠になる可能性があり、通常は段階的かつ意図的ではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、 AWS Config ドキュメントの「コンフォーマンスパック」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「継続的デリバ

リーの利点」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「継続的デリバリーと継続的なデプロイ」を参照してください。

CV

「コンピュータビジョン」を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、 AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、データ分類を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

一元管理とガバナンスを備えた分散型の分散型データ所有権を提供するアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「 でのデータ境界の構築 AWS」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、通常、大量の履歴データが含まれており、クエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「データベース定義言語」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリ

ティの手法。この戦略を採用するときは AWS、 AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。たとえば、多層防御アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、 AWS Organizations ドキュメントのAWS Organizationsで使用できるサービスを参照してください。

デプロイ

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

???「環境」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSのDetective controlsを参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニュファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

スタースキーマでは、ファクトテーブル内の量的データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する

離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに一般的に使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

災害によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるために使用する戦略とプロセス。詳細については、 AWS Well-Architected フレームワークの「 でのワークロードのディザスタリカバリ AWS: クラウドでのリカバリ」を参照してください。

DML

「データベース操作言語」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET (ASMX) ウェブサービスを段階的にモダナイズ を参照してください。

DR

「ディザスタリカバリ」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。たとえば、 AWS CloudFormation を使用してシステムリソースのドリフトを検出したり、 を使用して AWS Control Tower 、ガバナンス要件のコンプライアンスに影響を与える可能性のあるランディングゾーンの変更を検出したりできます。

DVSM

「開発値ストリームマッピング」を参照してください。

E

EDA

「探索的データ分析」を参照してください。

EDI

「電子データ交換」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。クラウドコンピューティングと比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間のビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、「電子データ交換とは」を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

「サービスエンドポイント」を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink 、他の AWS アカウント または AWS

Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「エンドポイントサービスを作成する」を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、MES、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、 AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「エンベロープ暗号化」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが使用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。たとえば、 AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。 AWS 移行戦略のエピックの詳細については、プログラム実装ガイド を参照してください。

ERP

「エンタープライズリソース計画」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

星スキーマの中央テーブル。事業運営に関する量的データを保存します。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の 2 つのタイプの列が含まれます。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために頻繁で段階的なテストを使用する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

障害分離の境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を高めるのに役立つアベイラビリティーゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界。詳細については、AWS 「障害分離境界」を参照してください。

機能ブランチ

「ブランチ」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「 を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械

学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021 年」、「5 月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

同様のタスクの実行を求める前に、タスクと必要な出力を示す少数の例を LLM に提供します。この手法は、プロンプトに埋め込まれた例 (ショット) からモデルが学習するコンテキスト内学習のアプリケーションです。少数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、またはドメインの知識を必要とするタスクに効果的です。「ゼロショットプロンプト」も参照してください。

FGAC

「きめ細かなアクセスコントロール」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用する代わりに、変更データキャプチャによる継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「基盤モデル」を参照してください。

基盤モデル (FM)

一般化およびラベル付けされていないデータの大規模なデータセットでトレーニングされている大規模な深層学習ニューラルネットワーク。FMs は、言語の理解、テキストと画像の生成、自然言語の会話など、さまざまな一般的なタスクを実行できます。詳細については、「基盤モデルとは」を参照してください。

G

生成 AI

大量のデータでトレーニングされ、シンプルなテキストプロンプトを使用して画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できる AI モデルのサブセット。詳細については、「生成 AI とは」を参照してください。

ジオブロッキング

地理的制限を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントのコンテンツの地理的ディストリビューションの制限を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、トランクベースのワークフローはモダンで推奨されるアプローチです。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショット。そのシステムまたはソフトウェアの新しいインスタンスをデプロイするためのテンプレートとして使用されます。例えば、製造では、ゴールデンイメージを使用して複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングし、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名ブラウンフィールド) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、、Amazon GuardDuty AWS Security Hub CSPM、、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「高可用性」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。

ハイアベイラビリティ (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

機械学習モデルのトレーニングに使用されるデータセットから保留される、ラベル付きの履歴データの一部。モデル予測をホールドアウトデータと比較することで、ホールドアウトデータを使用してモデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1～4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

「Infrastructure as Code」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5～20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「産業用モノのインターネット」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更する代わりに、本番環境のワークロード用に新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルインフラストラクチャは、本質的にミュータブルインフラストラクチャよりも一貫性、信頼性、予測性が高くなります。詳細については、 AWS 「 Well-Architected フレームワーク」の「イミュータブルインフラストラクチャを使用したデプロイ」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。AWS Security Reference Architecture では、アプリ

ケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に Klaus Schwab によって導入された用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/ML の進歩によるビジネスプロセスのモダナイゼーションを指します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

産業分野における IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「Building an industrial Internet of Things (IIoT) digital transformation strategy」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。AWS Security Reference Architecture では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「IoT とは」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「 を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」を参照してください。

IoT

「モノのインターネット」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、オペレーション統合ガイド を参照してください。

ITIL

「IT 情報ライブラリ」を参照してください。

ITSM

「IT サービス管理」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロー

ドとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータに対して事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM は、質問への回答、ドキュメントの要約、テキストの他の言語への翻訳、文の完了など、複数のタスクを実行できます。詳細については、LLMs」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「ラベルベースのアクセスコントロール」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの最小特権アクセス許可を適用するを参照してください。

リフトアンドシフト

「7 Rs」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。エンディアン性も参照してください。

LLM

「大規模言語モデル」を参照してください。

下位環境

「環境」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「機械学習」を参照してください。

メインブランチ

「ブランチ」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティまたはプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスにつながる可能性があります。マルウェアの例としては、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービス はインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォームを AWS 運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するためのソフトウェアシステムで、原材料を工場の完成製品に変換します。

MAP

「移行促進プログラム」を参照してください。

メカニズム

ツールを作成し、ツールの導入を推進し、調整を行うために結果を検査する完全なプロセス。メカニズムは、動作中にそれ自体を強化および改善するサイクルです。詳細については、 AWS 「 Well-Architected フレームワーク」の「メカニズムの構築」を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント を除くすべて AWS Organizations。 アカウントが 組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

「製造実行システム」を参照してください。

メッセージキューイングテレメトリトランスポート (MQTT)

リソースに制約のある IoT デバイス用の、パブリッシュ/サブスクライブパターンに基づく軽量 machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「 でのマイクロサービスの実装 AWS」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、AWS 移行戦略 の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20～50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの移行ファクトリーに関する解説とCloud Migration Factory ガイドを参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、 AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

に移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール AWS クラウド。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。MPA ツール (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、移行準備状況ガイド を参照してください。MRA は、AWS 移行戦略の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを に移行するために使用するアプローチ AWS クラウド。詳細については、この用語集の「7 Rs エントリ」と「組織を動員して大規模な移行を加速する」を参照してください。

ML

???「機械学習」を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「」の「アプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS クラウド」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、『』の「アプリケーションのモダナイゼーション準備状況の評価 AWS クラウド」を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1 つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、モノリスをマイクロサービスに分解する を参照してください。

MPA

「移行ポートフォリオ評価」を参照してください。

MQTT

「Message Queuing Telemetry Transport」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」 または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、イミュータブルインフラストラクチャの使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「オリジンアクセスコントロール」を参照してください。

OAI

「オリジンアクセスアイデンティティ」を参照してください。

OCM

「組織変更管理」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「 オペレーションの統合」を参照してください。

OLA

「運用レベルの契約」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「Open Process Communications - Unified Architecture」を参照してください。

オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ (OPC-UA)

産業用オートメーション用のmachine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA は、データの暗号化、認証、認可スキームを備えた相互運用性標準を提供します。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

インシデントや潜在的な障害の理解、評価、防止、または範囲の縮小に役立つ質問とそれに関連するベストプラクティスのチェックリスト。詳細については、 AWS Well-Architected フレームワークの「Operational Readiness Reviews (ORR)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携するハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造では、OT と情報技術 (IT) システムの統合が、Industry 4.0 変換の主な焦点です。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、オペレーション統合ガイド を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべての のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録する、 によって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウント に作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの組織の証跡の作成を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。 AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、OCM ガイド を参照してください。

オリジンアクセスコントロール (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、 AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETEリクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。OACも併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセスコントロールが可能です。

ORR

「運用準備状況レビュー」を参照してください。

OT

「運用テクノロジー」を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。AWS Security Reference Architecture では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントのアクセス許可の境界を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

個人を特定できる情報を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「プログラム可能なロジックコントローラー」を参照してください。

PLM

「製品ライフサイクル管理」を参照してください。

ポリシー

アクセス許可を定義 (アイデンティティベースのポリシーを参照)、アクセス条件を指定 (リソースベースのポリシーを参照)、または の組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可を定義 AWS Organizations (サービスコントロールポリシーを参照) できるオブジェクト。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、マイクロサービスでのデータ永続性の有効化 を参照してください。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「移行準備状況ガイド」を参照してください。

述語

`true` または を返すクエリ条件。一般的に`false`は `WHERE`句にあります。

述語プッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得して処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSのPreventative controlsを参照してください。

プリンシパル

アクション を実行し AWS 、リソースにアクセスできる のエンティティ。このエンティティは通常、、IAM AWS アカウントロール、または ユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントのロールに関する用語と概念内にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通じてプライバシーを考慮するシステムエンジニアリングアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「プライベートホストゾーンの使用」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイを防ぐように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、 AWS Control Tower ドキュメントの「 コントロールリファレンスガイド」および「 セキュリティコントロールの実装」の「プロアクティブコントロール」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

設計、開発、発売から成長と成熟、拒否と削除まで、ライフサイクル全体にわたる製品のデータとプロセスの管理。

本番環境

「環境」を参照してください。

プログラム可能なロジックコントローラー (PLC)

製造では、マシンをモニタリングし、製造プロセスを自動化する、信頼性の高い適応可能なコンピュータです。

プロンプトの連鎖

1 つの LLM プロンプトの出力を次のプロンプトの入力として使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法は、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改善または拡張したりするために使用されます。これにより、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、より詳細でパーソナライズされた結果が得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

パブリッシュ/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。スケーラビリティと応答性を向上させます。たとえば、マイクロサービスベースの MES では、マイクロサービスは他のマイクロサー

ビスがサブスクライブできるチャネルにイベントメッセージを発行できます。システムは、公開サービスを変更せずに新しいマイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用される手順などの一連のステップ。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

責任、説明責任、相談、情報 (RACI) を参照してください。

RAG

「取得拡張生成」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

責任、説明責任、相談、情報 (RACI) を参照してください。

RCAC

「行と列のアクセスコントロール」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用に使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

再設計

「7 Rs」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスの中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「7 Rs」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョン は、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他の とは独立しています。詳細については、「アカウントで使用できる を指定する AWS リージョン」を参照してください。

回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「7 Rs」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「7 Rs」を参照してください。

プラットフォーム変更

「7 Rs」を参照してください。

再購入

「7 Rs」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または回復するアプリケーションの機能。高可用性とディザスタリカバリは、 で回復性を計画する際の一般的な考慮事項です AWS クラウド。詳細については、AWS クラウド「レジリエンス」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R) 、説明責任 (A) 、協議 (C) 、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、そのマトリックスは RASCI マトリックスと呼ばれ、サポートを除外すると RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンシブコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSのResponsive controlsを参照してください。

保持

「7 Rs」を参照してください。

廃止

「7 Rs」を参照してください。

取得拡張生成 (RAG)

LLM がレスポンスを生成する前にトレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースを参照する生成 AI テクノロジー。例えば、RAG モデルは組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行する場合があります。詳細については、「RAG とは」を参照してください。

ローテーション

攻撃者が認証情報にアクセスすることをより困難にするために、シークレットを定期的に更新するプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「目標復旧時点」を参照してください。

RTO

目標復旧時間を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーティッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても、 AWS マネジメントコンソール にログインしたり AWS 、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントのSAML 2.0 ベースのフェデレーションについてを参照してください。

SCADA

「監視コントロールとデータ取得」を参照してください。

SCP

「サービスコントロールポリシー」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存する AWS Secrets Managerパスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、1 つの文字列、または複数の文字列にすることができます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「Secrets Manager シークレットの内容」を参照してください。

設計によるセキュリティ

開発プロセス全体を通じてセキュリティを考慮するシステムエンジニアリングアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、予防的、検出的、応答的、プロアクティブの 4 つの主なタイプがあります。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に応答または修復するように設計された、事前定義されたプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ検出的または応答的な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動応答アクションの例としては、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それ AWS のサービス を受け取る による暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、 AWS Organizations ドキュメントの「サービスコントロールポリシー」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエントリポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「AWS のサービス エンドポイント」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

サービスレベルの目標 (SLO)

サービスレベルのインジケータで測定される、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、責任共有モデルを参照してください。

SIEM

セキュリティ情報とイベント管理システムを参照してください。

単一障害点 (SPOF)

システムを中断する可能性のあるアプリケーションの 1 つの重要なコンポーネントの障害。

SLA

「サービスレベル契約」を参照してください。

SLI

「サービスレベルインジケータ」を参照してください。

SLO

「サービスレベルの目標」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お

客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、『』の「アプリケーションのモダナイズに対する段階的なアプローチ AWS クラウド」を参照してください。

SPOF

単一障害点を参照してください。

スタースキーマ

1 つの大きなファクトテーブルを使用してトランザクションデータまたは測定データを保存し、1 つ以上の小さなディメンションテーブルを使用してデータ属性を保存するデータベースの組織構造。この構造は、データウェアハウスまたはビジネスインテリジェンスの目的で使用するように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として Martin Fowler により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET (ASMX) ウェブサービスを段階的にモダナイズを参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1 つのアベイラビリティーゾーンに存在する必要があります。

監視コントロールとデータ収集 (SCADA)

製造では、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番稼働をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりする方法でシステムをテストします。Amazon CloudWatch Synthetics を使用してこれらのテストを作成できます。

システムプロンプト

LLM にコンテキスト、指示、またはガイドラインを提供して動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定し、ユーザーとのやり取りのルールを確立するのに役立ちます。

T

tags

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、 リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「AWS リソースのタグ付け」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数 のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要のある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「環境」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、 AWS Transit Gateway ドキュメントの「トランジットゲートウェイとは」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、 ドキュメントの「 を他の AWS のサービス AWS Organizations で使用する AWS Organizations 」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 枚のピザで養うことができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性 は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、深層学習システムにおける不確実性の定量化 ガイドを参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「環境」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「VPC ピア機能とは」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連する行のグループに対して計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなどのタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「Write Once」、「Read Many」を参照してください。

WQF

AWS 「ワークロード認定フレームワーク」を参照してください。

Write Once, Read Many (WORM)

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャはイミュータブルと見なされます。

Z

ゼロデイエクスプロイト

ゼロデイ脆弱性を利用する攻撃、通常はマルウェア。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

LLM にタスクを実行する手順を提供しますが、タスクのガイドに役立つ例 (ショット) はありません。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「数ショットプロンプト」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。